

問題 2, 3 では $\mathbf{u} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2$ とする.

1. 次のパラメータ $\mathbf{l}: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ が定める曲線 $L := \mathbf{l}(\mathbb{R}) \subset \mathbb{R}^2$ を図示せよ.

$$(1) \mathbf{l}(t) := \begin{pmatrix} a \cos t \\ b \sin t \end{pmatrix} \quad (a, b \text{ は定数, } 0 < a \leq b) \quad (2) \mathbf{l}(t) := \begin{pmatrix} 1-t^2 \\ t \end{pmatrix} \quad (3) \mathbf{l}(t) := \frac{1}{2} \begin{pmatrix} e^t - e^{-t} \\ e^t + e^{-t} \end{pmatrix}$$

$$(4) \mathbf{l}(t) := \begin{pmatrix} t^2 \\ t^3 - t \end{pmatrix} \quad (\text{ヒント: } x = t^2, y = t^3 - t \text{ の増減を考えよ})$$

2. (1) ベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \frac{1}{ab} \begin{pmatrix} -y \\ 2x \end{pmatrix}$ と前問 (1) の \mathbf{l} に対し, 線積分 $\int_{\mathbf{l}} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ を計算せよ.

(2) ベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} -y \\ 1-x \end{pmatrix}$ と前問 (2) の \mathbf{l} (ただし $-1 \leq t \leq 1$ とする) に対し, 線積分 $\int_{\mathbf{l}} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ を計算せよ.

3. (1) $\mathbf{l}: [-\frac{1}{2}, \frac{1}{2}] \rightarrow \mathbb{R}^2, \mathbf{l}(t) := \begin{pmatrix} t \\ \sqrt{1-t^2} \end{pmatrix}$ が定める曲線 L を図示せよ. $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} -y \\ x \end{pmatrix}$ に対し, $\int_{\mathbf{l}} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ を計算せよ.

(2) $h: [\frac{\pi}{3}, \frac{2\pi}{3}] \rightarrow [-\frac{1}{2}, \frac{1}{2}], h(t) := -\cos t$ は $h' > 0$ をみたすことを示せ. $\tilde{\mathbf{l}} := \mathbf{l} \circ h$ とおき, $\int_{\tilde{\mathbf{l}}} \mathbf{V} \cdot d\tilde{\mathbf{l}}$ を計算し (1) と比較せよ. $\hat{h}(t) := \cos t$ の場合はどうか?

4. (1) $\mathbf{l}, \mathbf{m}: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^n$ はともに正則曲線 L の正則パラメータである (速度ベクトルが $\mathbf{0}$ にならない) とし, 変数変換 h により $\mathbf{m} = \mathbf{l} \circ h$ が成り立っているとす. 任意の $s \in \mathbb{R}^1$ に対し $h'(s) \neq 0$ であることを示せ.

(2) (1) のような \mathbf{l}, \mathbf{m} が同じ向きを表すとき, $\mathbf{l} \approx \mathbf{m}$ と書くことにする. \approx は L の正則パラメータの集合上に同値関係を定めることを示せ. すなわち, 以下のことを示せ:

$$(i) \mathbf{l} \approx \mathbf{l} \quad (ii) \mathbf{l} \approx \mathbf{m} \text{ ならば } \mathbf{m} \approx \mathbf{l} \quad (iii) \mathbf{l} \approx \mathbf{m} \text{ かつ } \mathbf{m} \approx \mathbf{n} \text{ ならば } \mathbf{l} \approx \mathbf{n}$$

5. 人工衛星を打ち上げるには (重力に対して) 仕事が必要だが, 周回軌道に乗った後は仕事は必要でない. このことを次のようなモデルで検証しよう. $\mathbb{R}^3 - \{\mathbf{0}\} := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^3 \mid \mathbf{u} \neq \mathbf{0}\}$ とする.

(1) 地球の重力のモデルとして, $\mathbb{R}^3 - \{\mathbf{0}\}$ 上のベクトル場 $\mathbf{G}(\mathbf{u}) := -\frac{1}{|\mathbf{u}|^3} \mathbf{u}$ を考える. 地球の半径を r とし, 高さ h までの打ち上げの軌道として, $\mathbf{l}: [r, r+h] \rightarrow \mathbb{R}^3, \mathbf{l}(t) := (t, 0, 0)$ が表す線分を考える. $-\int_{\mathbf{l}} \mathbf{G} \cdot d\mathbf{l}$ を求めよ.

(2) $\mathbf{m}: [0, 2\pi] \rightarrow \mathbb{R}^3, \mathbf{m}(t) = (0, R \cos t, R \sin t)$ が表す曲線に対し, $-\int_{\mathbf{m}} \mathbf{G} \cdot d\mathbf{m}$ を求めよ.

(3) (1) の線積分の $h \rightarrow +\infty$ における極限值が有限であることを示し, その物理的な意味を考えよ.

6. (教科書 p. 51 参照: 「関数論」で当該箇所を学んだ後に考えてみてください)

$z \in \mathbb{C}$ と関数 $h: \mathbb{C} \rightarrow \mathbb{C}$ を実部と虚部に分け, $z = x + \sqrt{-1}y, h(z) = f(x, y) + \sqrt{-1}g(x, y)$ と書く. 曲線 $\mathbf{l}: [a, b] \rightarrow \mathbb{C}$ とベクトル場 $\mathbf{V} = \begin{pmatrix} f \\ -g \end{pmatrix}, \mathbf{W} = \begin{pmatrix} g \\ f \end{pmatrix}$ に対し, $\int_{\mathbf{l}} h(z) dz = \int_{\mathbf{l}} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l} + \sqrt{-1} \int_{\mathbf{l}} \mathbf{W} \cdot d\mathbf{l}$ を示せ.

(提出の必要はありません)

補足. 同一の正則曲線 L を表す正則パラメータ \mathbf{l}, \mathbf{m} に対し, $\mathbf{m} = \mathbf{l} \circ h$ となる変数変換 h を取るとき, $s \in \mathbb{R}$ と $t = h(s)$ について $\frac{d\mathbf{l}}{dt}(t) = h'(s) \frac{d\mathbf{m}}{ds}(s)$ が成り立ちます. これらは L 上の点 $\mathbf{l}(t) = \mathbf{m}(s)$ における速度ベクトルで, パラメータを変えても接線の方向は変わらないことを意味します. ある 1 つの s について $h'(s) > 0$ であるとき, \mathbf{l} と \mathbf{m} は L に同じ向きを定めるといい, $h'(s) < 0$ のときは逆の向きを定めるといいます. 問題 4 (1) より, ある 1 つの s_0 について $h'(s_0) > 0$ ならば, 任意の $s \in \mathbb{R}$ に対し $h'(s) > 0$ です (0 を通過しない限り符号は変わらない). よって $\mathbf{l} \approx \mathbf{m}$ か否かは, どの点で速度ベクトルの向きを比べるかによりません.

ベクトル場 \mathbf{V} の, 向きのついた曲線 L に沿った線積分は, 向きを変えない限りはパラメータによらず, 向きを逆にすると -1 倍になります. このことから $\int_{\mathbf{l}} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ を $\int_L \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ と書くことに意味があり, $\int_{-L} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l} = -\int_L \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ が成り立ちます. ただし $-L$ は向きを逆にした曲線です. 問題 3 はこのこと具体例です. 今後も「向き」はいたるところに現れ, 積分の符号を決める重要な要素です. たかが ± 1 のことではありますが, 「向き」の取り扱い是非常にややこしく, 頭の痛い問題であることが徐々にわかってきます.

幾何入門レポート問題 4 (2019 年 5 月 10 日)

担当：境 圭一

各自の学籍番号の下 2 桁を a とおく．例えば 18S1078P なら $a = 78$, 18S1089Q なら $a = 89$.

$r = (a + 1)(60 - a)$ とする． $\mathbb{R}^2 - \{\mathbf{0}\}$ 上のベクトル場 $V\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} := \frac{1}{x^2 + y^2} \begin{pmatrix} -y \\ x \end{pmatrix}$ と, 曲線のパラメータ $I: [0, 2\pi] \rightarrow \mathbb{R}^2 - \{\mathbf{0}\}$,

$I(t) = r \begin{pmatrix} \cos t \\ \sin t \end{pmatrix}$ について, 線積分 $\int_I \mathbf{V} \cdot d\mathbf{I}$ を計算せよ.

(5/17 の 3 限開始時まで提出してください)

http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/19_geometry/19_geometry.html